



ピースあいち企画展「戦争と若者—断ち切られた命と希望」

7月22日(火)～8月31日(日)

戦争が日常だった頃、戦争は若者たちの運命を翻弄し、その命と希望を断ち切りました。若者たちが残したものは、今の私たちに何を伝えているのでしょうか。

先頃、政府は憲法9条の解釈を変更して、集団的自衛権の行使を容認すると決めました。しかし、ハイテク化された最近の戦争では、人間の姿がみえにくく、戦争が人間に何をもたらすかを想像することがますます難しくなっています。そのため、「いざとなったら戦争もやむをえない」「戦争になったら勇気をもって自国を守る」などという声も聞かれます。

先の戦争では、一般人が住む都市を無差別に攻撃し、またされもしました。国家総動員法の下で、国民だれもが避けられない苦しみを味わいましたが、特に犠牲を強いられたのは若者でした。輝く未来があったであろう若者は、どのようにして命と希望を断たれていったのでしょうか。

戦死を「散華*」と美化し、特攻死したものを「特進*」させ「軍神*」とまつりあげて、後に続けと若者をあおり、戦争を遂行した「国家の意思」は、どのようにして決定されたのでしょうか。いま、よその国同志の戦いに、日本が集団的自衛権の名のもとに参加することを、私たちは容認できるのでしょうか。この展示が「国家」の視点ではなく、戦争は市民の「命の破壊」であるとの原点に立ち返った議論を起こすことを期待します。

*散華(さんげ):戦死を美しいものとして表現する用語。特進(とくしん):すぐれた功績をたたえ、特別扱いの昇進をさせて報いること。軍神(ぐんしん):すぐれた功績をたたえ、戦死した軍人を神になぞらえること。

【展示内容】

第一部：きけわだつみのこえ—戦没学徒たち

『戦没学徒の手記—きけわだつみのこえ』に掲載された手記の主9人と名古屋出身で予科練を経て特攻隊員となった若者を、顔が見え息づかいがわかるように紹介します。その中には「内地人と同等に兵役につかされた」朝鮮出身の学徒もいます。(わだつみのこえ記念館、上原良司家、中央大学大学史編纂課所蔵品より40点余を展示)

第二部：女学生たちの悲劇—豊川海軍工廠

豊川海軍工廠の爆撃で死亡し、遺体さえも還らなかった少女たちの純朴な姿と痛ましい遺品を紹介します。(立命館大学国際平和ミュージアム、豊川市桜ヶ丘ミュージアム所蔵品より30点余を展示)

第三部：戦没画学生の絵—無言館より

長野県上田市にある「無言館」の収蔵絵画9点を展示します。限られた時間に描いたと思われる、家族や恋人、慣れ親しんだ故郷の風景があります。彼ら画学生たちの「普通の穏やかな日」もたちまち戦争に巻き込まれ、穏やかさがかえて痛ましいものとして伝わってきます。(戦没画学生慰霊美術館無言館所蔵品より9点を展示)



企画展チラシ
「ピースあいち」
ホームページでも見
ることができます。

*会期中は日曜開館します。(休館日は月曜)
大人500円 小中高生200円(入館料を含む)

2014年度 夏の戦争体験語りシリーズ

8月1日(金)～8月15日(金)

8月恒例のシリーズ。今回は学徒出陣、東京大空襲の体験など、初登場の方に語っていただきます。

日程	語り手	体験内容	日程	語り手	体験内容
8月1日(金)	今村 實さん	学童疎開・空襲	10日(日)	筧 久江さん	学徒動員・空襲・疎開
5日(火)	塩澤君夫さん	学徒出陣	12日(火)	中川礼治さん	学徒動員・空襲
6日(水)	木下富枝さん	広島原爆	13日(水)	北村守男さん	空襲・暮らし
7日(木)	田中逸郎さん	学徒動員(豊川海軍工廠)	14日(木)	並木満夫さん	東京大空襲
9日(土)	中村桂子さん	父の沖縄戦を語り継ぐ	15日(金)	小島鋼平さん	学童疎開・空襲

(注) ☆毎日午後2時～3時開催です。

☆休館日(月曜)のほか、2日(土)、3日(日)、8日(金)は他事業のため実施しません。

☆入館料(大人300円、小中高生100円)が必要です。

平和を願う熱い思いが寄せられた 特別展「みんなで学ぼう日本の憲法」

4月29日(火・祝)～5月31日(土)

このところ、「平和憲法」と呼ばれる日本国憲法の危機が叫ばれています。「戦争をしない」と決めた国が「戦争をする」国に変えようというのです。私たちは、現憲法が世界に誇る憲法だということを概念的には承知していますが、個々の条文まで読まれた方は多くないと思われる。そこで、親しく触れていただこうと、この特別展を企画しました。



手にとって読むことができる

20世紀は戦争の100年でした。21世紀こそは平和な世紀にしたいと誰もが思ったでしょうが、世界では未だに戦火が絶えません。しかし、日本はこうした戦争に巻き込まれませんでした。憲法「第九条」のお陰です。

この特別展では、展示台に憲法に関わる書籍をおよそ300点並べ、手にとって親しく読んでいただけるようにしました。その中にはマンガやイラストなども折り込み、わかりやすく読めるものもありました。また、ぜひ読んでほしいという本を解説文を付して紹介しました。併せて、読まれた方の感想文を壁面に掲示しました。

4つの展示項目

展示の構成では、次の4つに絞りました。

- ①大日本帝国憲法と日本国憲法－帝国憲法と現憲法の制定過程とその比較。

- ②教科書の中の憲法－小学6年生が憲法を学んでいること、中学、高校の教科書も同様の記述があること。
 - ③自民党憲法草案とは？－自民党改憲草案の検証。その評価は見学者に委ねました。
 - ④世界に広がる平和憲法の輪－憲法に平和条項がある国々を紹介し、現憲法の素晴らしさを学んでいただく。
- ### 第九条が守った日本の平和

来館者の1人から、「日本は平和主義を唱えているが、自衛隊があり軍備十分である。これで平和国家といえるのか」という問いがありました。対応したボランティアのKさんは、「確かに、その通りです。でも戦後68年余、自衛隊は海外で1人も殺してはいませんし、自衛隊員も血を流していません。第九条があるからです」と返し、しばらくのやり取りがありました。その方は、「そう考えたらいいか」と言って納得されたとのことでした。

枯葉剤の被害は今も…

写真展「ベトナムの枯葉剤～ダイオキシンを追いかけて～」

4月1日(火)～4月19日(土)



西村洋一さんの枯葉剤(猛毒ダイオキシン)の被害を伝える写真展。皮膚が黒色に変化した若者、体が硬直し自由に動かすことのできない子ども等々の写真は、被害はいまだに続き、三世にまで及んでいることを明らかにしている。展示された写真は比較的軽微な症状のものだが、スクラップブックに入っている写真は正視できないものが多い。物凄く障害を持ちながらも助け合い、懸命に生きていく人間の強さに感動した。

マンガになった名古屋大空襲

「あとかたの街」複製原画展

6月13日(金)～7月5日(土)



女性コミック誌『BE・LOVE』に連載されているマンガです。一人の少女とその家族の目を通して、戦争末期の名古屋の様相を描いています。作者のおざわゆきさんは、名古屋生まれの名古屋育ち。お母様の体験をもとに、また「ピースあいち」の「語り手」らにも取材され、ストーリーをまとめられました。このほど、単行本として第一巻を講談社から出版(領価580円税別)されました。「ピースあいち」でも売れ行きは好調です。

特別展

「みんなで学ぼう日本の憲法」

このたびの特別展「みんなで学ぼう日本の憲法」では、22人からなるプロジェクトチームが作られました。その中には『日本国憲法を口語訳してみたら』を出版された塚田薫さんと名古屋市立大学の学生の方々にも加わっていただきました。そこで、この特別展での取り組み方と平和への思いを綴っていただきました。

日本国憲法は「世界の宝」

吉川 守

日本国憲法、とりわけ第九条の持つ普遍的価値に畏れおのく現安倍政権は、解釈改憲によって実質的憲法改悪を目論んでいます。同時に、現憲法を、「アメリカによる押し付け憲法」と誹謗することにより、自分たちに都合の良い憲法を作ろうとしています。

「大日本帝国憲法と日本国憲法」のコーナーでは、旧憲法が15年戦争の悲惨をもたらす可能性を内包していたこと、その深い反省から現憲法が存在していることを説明しました。

また、植木枝盛らの自由民権運動の中から生まれた私擬憲法の流れが、明治政府に一顧だにされることになかったにもかかわらず、鈴木安藏らの努力により、現憲法に脈々と受け継がれていることも明らかにしました。

戦争否定、人権尊重の日本国憲法は、「世界の宝」と呼べるのではないのでしょうか。

憲法展をふりかえって

河原 忠弘

「みんなで学ぼう日本の憲法」展示の準備に参加し、平和条項・国防条項などの国際比較を担当しました。メンバーは、岡田さん、名市大生の玉井さん、河津さんと私の4名です。「比較憲法」の勉強で、すぐ諸憲法の優劣や特徴を挙げただけでは、「あ、そうか」というだけで意味がないと気づきました。そこで、①まず比較を基礎とし、②日本国憲法(特に平和条項)成立までの世界の歴史とその意義を確認し、③現在、近未来の日本周辺の平和と安定のために日本国憲法とそれを支えている国民の役割を考え、④世界の市民・NGOが日本国憲法をどのように評価しているか、をパネル4枚にまとめると決め、皆が分担しました。この点は成功したと思います。だが各メンバーには事情があり、ミーティングで相互に刺激しあう活動が不足したと反省しています。

平和へのメッセージ



「みんなで学ぼう日本の憲法」に参加して

木村 麻子

今回の特別展のパネル展示の内容は、「ピースあいち」のボランティアなど22人からなるプロジェクトチームで構想、作成したものです。私もその一人として参加しました。知らなかったことがたくさんあり、どのように表現すれば来館者の方に伝わるのか、悩みながらのパネル作成でした。

ともすれば生活に追われ、新聞を読むのもままならぬ日々。しかし、忙しくて何もできない、難しくてわからない、ではなく、戦争をしないために何が必要なのか、学び行動しなくてはという思いを新たにしました。

短い文章に思いを込めた

岡原 里佳

私は今回、大学の平和学習サークルPATHを通じて憲法展に参加させていただきました。自分の時間を削ってまで憲法と真剣に向き合う方々と関わることができ、私自身も憲法と平和について考え直す良い機会となりました。今まで展示は見るばかりで、作る場を経験したのは初めてでした。短い展示の中でどうしたらもっと自分の思いを込めることができるのか、文章を練るのはとてもたいへんな作業でしたが、周りの方の力も借りながらなんとか展示を完成させることができました。

平和や憲法について、他国の戦争など私たちとは遠い世界での話ではなくもっと身近な場所から考えてほしいと考え、「もしあなたが先生だったら」という展示を作りました。憲法について少しでも、一度立ち止まって考えてもらえたのならうれしいです。

「ずっと平和がいい」

憲法展・展示場入口に平和へのメッセージコーナーを設けた。閲覧者の多くの方にメッセージを記入していただき、掲示用のボードに貼りきれないほどでした。

5歳の子どもさんから87歳の高齢の方まで、合計136人の幅広い年齢層の方が日本の平和への思いを綴られました。投稿者の年齢別内訳は、6歳未満(未就学児):2人、6~15歳(小中学生):14人、16~18歳(高校生等):6人、

19~22歳(大学生等):30名、30代・40代:8人、50代:6人、60代:21人、70代・80代:15人(最高齢87歳)、年齢不明が24人。20代以下の若い人が半数を越えていました。

メッセージ内容は、どの年代も平和であることの大切さ、そのために憲法第9条を守ることの必要性を訴えるものが多かった。各年代層からいくつかのメッセージを下記に紹介します。

平和へのメッセージ

■この平和を大切に

「ずっと へいわがいい」(5歳・男性)

「せんそう反対! 平和が好き! 私も平和の国にしたい! 日本を自分の手で変えてみたい!」(9歳・女性)

「集団的自衛権や憲法改正など、真実をきちんと知る努力をして、国民一人一人が考え、向き合っていかなければならない問題だと思う」(21歳・女性)

「(前略)空襲に脅えたり飢餓に苦しんだりすることなく毎日生きることができる自分は本当に恵まれていると思う。(中略)普通に暮らせることがどんなに幸せなことなのかを感じて、もう二度と戦争が起こらないようにするべきだと思う」(19歳・女性)

「平和とは何だろうかと改めて考えさせられました。戦争がもし世界で一つも起こらない日が来ても、貧困や環境問題など、平和には程遠い。自分だけでなく、私の先祖、周りの人々、世界の人々にもっと感謝しなければならぬと思いました」(19歳・女性)

「当時のことを伝える証言者がいなくなっていく中、我々若い人たちが少しでも子どもたちに平和の大切さを伝えていくべきだと思います」(19歳・男性)

「あたり前だった平和があたり前でなくなる日が来るような、一生懸命育てた子どもたちを軍隊に送る日が来るような、そんな悲しみは嫌です」(42歳・女性)

「憲法の資料がこんなに集められていて、勉強になります。日本国憲法の素晴らしさを良く学び、守り抜くことが大切だと思います。」(74歳・女性)

「毎日の暮らしの中で平和の価値やありがたさを忘れていく人が多く、私もその一人だと思います。小学校から学んだ憲法をもう一度大人たちは学ばないと。意見や考えはそれぞれあるが、憲法はみんなが守るもの。それを忘れてはいけません」(年齢不明・女性)



■第九条を守ろう

「6年生の時に憲法について学び、9条と戦争はすごく関係していることを知った。(中略)第9条はとても大切です。」(12歳・女性)

「戦争はとても悲惨なもので、起きると取り返しがつかない。皆が戦争、平和、憲法について知り、考えていくことが大切だと思う。平和な日本を守り、未来に残すために」(16歳・男性)

「二度と戦場に教え子を送らないと決意した先輩たちの意思を受け継ぐこと。それが私の積極的平和主義」(53歳・男性)

「憲法の拡大解釈により、なし崩し的に集団的自衛権を行使できるようにしようとしているが、断じて阻止しなければならぬと思います」(61歳・男性)

「教育の大切さを痛感しました。孫が戦争にかり出される日が来ないよう、今精一杯運動をせねばと思います。」(66歳・女性)

「もう私は戦死はしませんが、若い人、若い自衛隊員が心配です。もう一回経験してから反省することのないように。」(69歳・男性)

「私は日本が大好き。強制されなくても愛国心がバッチリ。その理由の一つが9条。戦争を放棄し、だれも殺さず、殺されない。これこそ美しい日本」(年齢不明・女性)

「沖縄 今とつながるために」展 6月10日(火)～7月5日(土)

「ピースあいち」は、毎年沖縄に関わる特別展を開催してきました。今年も、沖縄の米軍基地、普天間基地移設問題、オスプレイ配備、教科書への政治介入問題、日米地位協定、沖縄の世論・人々の願いを取り上げました。

沖縄が抱える問題の理解を深めるために、今回の特別展で一番複雑な教科書採択問題を紹介します。

八重山採択地区(石垣市、与那国町、竹富町)では2011年、中学公民教科書の選定に際し、石垣市・与那国町が「新しい歴史教科書をつくる会」系の育鵬社版を選び、竹富町は東京書籍版を採択しました。文科省は「教科書無償措置法(採択地区では同一教科書とする)」違反を理由に竹富町だけ無償配布をしませんでしたが、同町は「地方教育行政法(市町村の判断で教科書選定ができる)」を楯に抵抗しました。

この二法の矛盾を解消するため、国は「無償措置法」



を改正して地区協議会決定に従うことを義務づけ、地区単位の細分化を図りました。その結果、2014年5月、竹富町は共同採択地区からの分離が認められ、来年度から単独で教科書採択ができるようになりました。

100歳の語り手・上野三郎さん展 盛況裡に終わる

4月29日(火)～6月28日(土)

「ピースあいち語り手の会」のメンバーに、100歳になつてなお戦争体験を語っている方がいます。1914(大正3)年1月1日生まれの上野三郎さんです。

上野さんは昭和19年6月、二度目の応召で戦地へ派遣されましたが、船の撃沈やフィリピンでの戦闘を経ながらも奇跡的に命を取りとめ、帰還されました。その体験を自ら水彩画にして学校の児童に語っている様子をパネルにして展示しました。

上野さんは今も「もう戦争は絶対にあってはいけない。これからの時代を担っていく若い人たちが争いのない平和な世の中を築いていっていただけることを願っています」と語っています。この展示の様子はNHKや新聞各紙で詳しく報道されました。



ピースまつりを「名東の日」5月11日に開催

当日はバザーを目当てに11時の開館前からたくさんの方が、玄関前に……。好評の「さぬきうどん」は、200円。カフェではコーヒーが100円で提供され、バザーを楽しみながら、2杯3杯と注文する方も。子どもたちは2階の「平和コマ」づくり、3階で開催中の憲法展では、制作にあたったスタッフの解説もありました。また、平和の活動を続ける「国連WFPサポーターズなごや」「あいちへいわ映画祭」「名大九条の会 つるまい支部」「AHI(アジア保健研修所)」「名古屋をフェアトレードタウンにしよう会」の活動紹介などのコーナー、「おもちゃ病院」「北医療生協による健康チェック」も行われました。



15歳の語り継ぐ戦争—金城学院中学生の壁新聞～8月31日(日)まで

金城学院中学3年生の修学旅行は、原爆投下された街・広島を訪ねる平和学習の旅。事前学習では、祖父母の戦争体験を聞いたり、体験者のお話を聞く会なども行

われています。その旅で一人ひとりの生徒が見た、感じたヒロシマをまとめた「壁新聞」。今年の修学旅行では、子どもたちは何を心に残したのでしょうか——。

総会の報告

会員の拡大、1,000人をめざす

6月14日(土)、当館1階ホールで2014年度の通常総会を開いた。会議の冒頭、あいさつに立った野間美喜子館長は、昨今の政治状況を紹介したあと、この夏の特別展について語った。3つの展示項目を挙げ、先の戦争で他国と戦う状況のなかの不幸な若者の姿を示したいと紹介。併せて、県が戦争資料の展示館を来年8月15日に開設することに触れ、戦争と平和について学んだり考えたりする場が増えることは喜ばしいと述べ、当館もこれまでどおり多角的な活動を続けていきたいと話を結んだ。

そのあと議事に入り、2013年度の事業報告、決算・監査報告を承認。次いで2014年度の事業計画と予算を協議して承認。出席者からは、会員拡大のための提言もあり、現在940人の会員を1,000人にすることを申し合わせて総会を終えた。

資料館探訪 10

愛知平和記念館

——もう一つの名古屋の戦争資料館——

護国神社の西側にある桜花会館の3・4階に愛知平和記念館がある。開館されたのは1976年で、名古屋市では一番古い戦争資料館である。開設を進めたのは愛知県遺族連合会で、現在もそこが管理している。



3階は図書館になっており、ビデオも見ることが出来る。4階が展示室である。遺族が寄贈した物が展示されているが、説明パネルがなく、遺品が並べられているだけである。この遺品は何を意味するのか、資料を見ながら考えないとわからない。見る者に考えさせるというのも一つの展示の仕方だと思った。しかし、戦争を知らない世代にはわかりにくい。サイパン・テニアン等々の南方の島々で収集された遺物が多く展示されているのが特徴である。(N)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

会員確保1,000名をめざして

「ピースあいち」の基本財源は、大人300円(子ども100円)の入館料と会員の皆さんの会費(正会員=6000円/賛助会員=3000円)です。「ピースあいち」開館以来数年間、正会員・賛助会員合わせて約800名で推移してきましたが、最近大きく減少してきました。基本的要因は会員の高齢化です。

この現状に危機感をいだき、私たちは昨年夏、会員拡大に取り組みました。その結果、今年6月末現在で、正会員=338名、賛助会員=603名、合わせて941名となりました。

私たちは、当面1,000名の会員確保をめざしています。それを収入に換算すると正会員400名、賛助会員600名で420万円です。「ピースあいち」の年間経費は約1200万円、現状は不確定な助成金に頼って運営しています。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。賛助会員の会費3000円、換算すれば1日=10円。ぜひ会員となって「ピースあいち」を支えて下さい。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階の「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示。ほかにも準常設展示として「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

「ピースあいち」への交通のご案内



● 編集後記 ●

「ずっと へいわがいい」—この5月に開催した「憲法展」に来館した5歳の男の子の一言である。昨年6月、「沖縄慰霊の日」の追悼式で小学2年生の安里有生くんが自作の詩を朗読した。「へいわってすてきだね」という詩は、今年年頭に開催した「戦争の中のこどもたち」展で掲示した。

今年の追悼式では、小学3年生の増田健琉くんが「空はつながっている」と題する長文の詩を朗読し、平和な国の空は「青あおと広がるやさしい空」なのに戦争をしている国の空は「はい色のかなしい空」だと読み、「空はつながっているのに、どうしてかな」と平和を願う思いを歌いあげていた。大人たちは、こうした子どもたちに励まされている。(S)